

宝物はすぐそばに

校内研通信

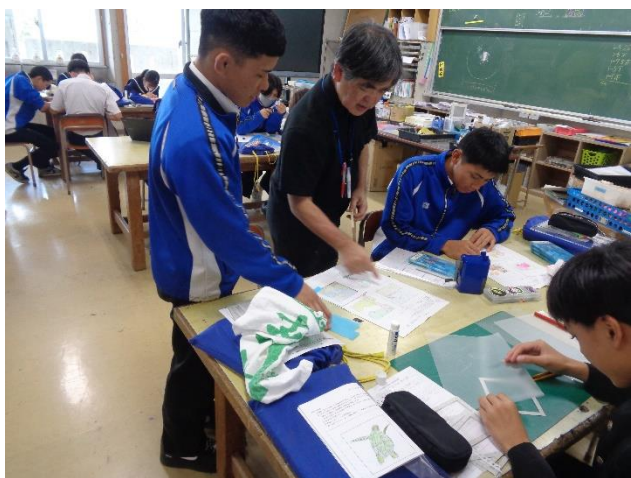
第41号

R7.12.18

発行者:校内研担当 仲村智

立体照明の温かな光は南風原中3年生の未来を照らす

12月17日(水)4校時、3年4組にて上原進先生が美術の授業を公開しました。本時のねらいは、立体照明の制作において奥行きのある表現を工夫することです。導入ではまず、“日曜美術館”のビデオ鑑賞を通して芸術文化作品の工夫から感じたことなどを、ポイントとなるところでは先生ビデオを止めて解説することで、生徒はスムーズにワークシートにまとめていました。帯活動のように継続することで唯一の正解がないアートの世界で、多様な視点や価値観に触れ受け入れる力及び豊かな感性や創造力、多様な見方・考え方を育てているのだと感じました。本時のメインの立体照明の製作活動においては、なかば自由進度学習のように、生徒は自の実態に応じて、適切な場所・方法で最後まで集中して活動していました。授業を通して机間指導で生徒一人一人に適切な支援を意識的に続けてた進先生、製作活動の見本となるような授業をありがとうございました🙏



RS
みつけた!

本日の

キーワード

対話型鑑賞

美術作品を前に、専門知識ではなく参加者の「感じたこと」「考えたこと」を言葉で共有し、対話を重ねながら理解を深める鑑賞方法。ファシリテーター(教師)の問いかけ「どう感じる?」「なぜそう思う?」などを通して、観察力・思考力・コミュニケーション能力を育むことが目的

「対話型鑑賞」から「相互鑑賞」へ
作品を「見る・考える・話す・聞く」プロセスを通じて、知識だけでなく、他者の多様な見方を受け入れ、自己の感性や思考を深め、相互理解を育むことを目指す。
美術を「学ぶ」ことから「美術を通して対話する」ことへのシフトを意味する。

表現における試行錯誤過程の教育的価値

